

A T A C 活動の紹介 第1回ものづくりセミナーを開催しました

～ 国内生産を続けるためのものづくりの強化策 ～

秋の気配が深まる10月17日、大阪科学技術センターにおいて、「ATAC第1回ものづくりセミナー」を開催致しました。



ものづくりセミナーの様子

ATACでは、従来から中堅・中小企業の技術支援を通して得た経験を活かし、皆さまのお役に立つ企業活性化の秘策を「ATAC講演会」でご披露して参りました。

この度、新たに「ATACものづくりセミナー」を提案致しました。

このセミナーは、ものづくりの現場でご苦労されている管理・監督者にお役に立つ支援策として企画致しました。

“ものづくり現場の管理監督者”は、品質や設備のトラブルや納期、値引き要請への対応、等全て一人で担当しておられます。その結果、抜本的な解決が図れていないのが実態ではないでしょうか。

問題や課題が多い程“原点に帰れ”と言われるます。このセミナーでは、いわゆる“ハウツー”ではなく、ものづくりの原理原則を理解し、同じ問題を抱える者同士で解決の糸口を見つける事を目的としました。

そのために、講師の話をお聞き頂くだけでなく、講師や他の参加者間との交流を図って頂くことを狙いと致しました。

記念すべき第1回は、受講者数が22名となりお陰様で盛況でした。

講師は、パナソニックで長年に亘り、生産技術の開発や事業の責任者などを務めた、ATAC会員の吉田良耿が担当し、『国内生産を続けるためのものづくり強化』策として、製造技術の真髄である“人の効率を極限まで高める科学的方法”を実技付きでご紹介しました。

イントロダクションとして、社内外の開発競争に勝つために、常に「小さな機械」を目指した開発や聖域を設けない合理化、作業面も考慮した設備レイアウトや建物の設計、更

には歩留まり向上やコストダウンは部分最適化ではなく全体最適化で考える事等、経験に基づく事例を紹介しました。

続いてテラーに始まる約100年の作業効率化の歴史に触れ、昨今の自動化先行の中で忘れられかけているWF分析の解説と参加者には実技体験をして頂きました。

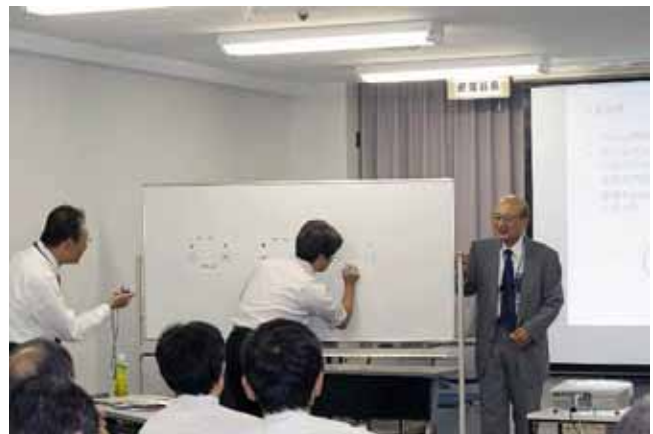
勿論、WF分析手法は、現在にもそのまま通用するものなので、職場に帰って試してみると話しておられた参加者もありました。

交流会には、殆どの方に参加して頂きました。

多くの方にWF分析は新鮮で、この分析手法を有効活用し更には後代に残すために有志による「WF研究会」設置の希望があり、ATACで前向きに検討することになりました。

また、WF手法に限らず、聖域を設けず、高い目標を立て、その達成にあらゆる努力をしてゆくことが、ものづくりを更に深化させるのに必要だ、との意見もありました。

一方、セミナーの主題である、“国内で生産を続けるためのものづくり”そのものが、最近の大幅な受注量の低下や厳しい値引き要請の結果、“雇用の維持が出来なくなっている”とか、“国内で事業継続が難しくなっている”などの意見もありました。



実技によるWF分析

海外生産との仕事の分担や、付加価値のある商品作りの重要性を説く方もあり、ものづくりを広い視野で見る機会にもなったようです。

ATACでは、「ものづくりセミナー」の今後の企画運営に関し、参加者にアンケートでお答え頂きました。結果はATACのホームページなどでお知らせしますが、次回以降の「ものづくりセミナー」に活かして参ります。

皆さまの「ものづくりセミナー」へのご支援を宜しくお願い致します。(長田 記)